

## 富山市剣道連盟居合道講習会

無涯塾資料・講習

記録・無涯塾師範 廣瀬

日 2001年2月7・8日（土・日）  
場所 婦中町鶴坂公民館  
講師 武田範士八段・草間範士八段

### 注 目 点

- 1 本目**
- ・血揮いしたとき、左手の親指と人差し指を割らない。そのときの親指は左脇腹へ差し込む要領。[以下左手掌を鞘に押し当てて行う血揮いは同じ]  
鈴木一範士に習った納刀する際に左手中指を鞘の背に滑らせて鯉口を握る方法とは違ったので質問するも明確な答えなし。
  - ・納刀は、刀を納めながら膝を着く。（膝頭の位置へ鰐がきたとき腰を落とし始める今までとは違う）
  - ・血揮いは45度をキープ。（足を踏み替えても45度＝以下同じ）
- 4 本目**
- ・振り向きながら刀を抜き出す。（後方敵との間合が近い。8本目は遠い）
  - ・後の敵を突く為後方を見て、左足を90度（以内）移動した瞬間に鞘放れさせて乳通しの体勢となる。
  - ・納刀し終わって蹲踞の姿勢。（右足膝頭を若干右に開く。尻と腿の間は紙一枚）
- 5 本目**
- ・刀を前下方へ抜き出さない。抜き出した右手は高くてもよい。但し脇腹から切ることを怠らない。
  - ・脇腹より抜き上げた剣尖は右肩上方まで勢いで。（従来より上方）
- 7 本目**
- ・「右の敵に向き直る同時に右足をやや前方に踏み出し」が忘れられている。
- 8 本目**
- ・前面の敵と後方の敵の位置は一直線ではない。
  - ・軸足に注意して廻る。
- 10 本目**
- ・正体して、右敵の右拳を打つ。
  - ・従って左足を引いて一重身になる。  
（解説書には記述されてない）
  - ・上段に執ったとき剣尖を動かさない。（1・2・3で大血揮い）
- 他**
- 業が止まらないように。澱みと止まるは違う。

2日目 武田先生講和

## 居合道を修行する上での要点

**気**

気を身体に入れる。心こそ心迷わす心。

**位取り**

仮想敵に対する位取りを考える。

**品位**

風格

**気位**

**心の落ち着き**

目線。瞬き。

**目付け**

遠山の目付け。切るときの目付け。

**気迫**

切迫感。

**残心**

切っているときの残心。敵の数に応じた残心。(三方切り・四方切り等)

**打つ**

敵の出頭を打つか、敵が下がった所を打つか見極めを研究。

**気剣体一致**

**刃筋**

**儀**

忠義。武道は主君の為に尽くす。

**徐破急**

**間**

時間的な間・距離的な間。

**流れ**

1本毎に業の流れがあり、5本の業があれば5本の流れがある。

**目標**

至近の目標もさることながら、10年後の目標を。

以上